

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 8月28日現在

機関番号：25406

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009年度～2012年度

課題番号：21520199

研究課題名（和文） 法楽歌分析による寺社縁起との相関関係に関する基礎的考察

研究課題名（英文） Basic Research on correlation with several Shrines Traditional Histories, in reference to Jien's Poems of Buddhist Enjoyment

研究代表者

石川 一 (ISHIKAWA HAJIME)

県立広島大学・人間文化学部・教授

研究者番号：80193283

研究成果の概要（和文）：慈円の和歌活動のうち自省期における諸社法楽百首群を分析・検証することによって、寺社縁起形成に関する基本資料を精査することを目的として解明を進めてきた。その結果、東大寺大仏再建に掛ける九條兼実などの活動や東大寺衆徒による伊勢神宮参詣などの動向などの基本資料を博捜することが出来たが、膨大な伊勢神道に関する著作が対象として扱うことのない「法楽歌」の背景に潜む歴史意識の深遠さに迫ることが出来なかった。引き続き法楽歌の全容解明に取り組んで行きたいと思う。

Outline of Research(English): This research has scrutinized the basic documents regarding the construction of histories of several shrines in reference to Jien's Buddhist Enjoyment Poems, which were written in his "self-contemplation period." This research succeeded in collecting the materials indicating people's action for the reconstruction of the huge statue of Buddha in Todaiji Temple (Kanezane Kujo's action in particular) and the visits to Ise Grand Shrine by Todaiji Temple's monks. However, the historical views behind the poems, which the documents regarding Ise Shinto do not touch on at all, were not revealed in this study. Further investigation needs to be done for illuminating the whole picture of the poems.

付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
総計	2,900,000	870,000	3,770,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：拾玉集、法楽百首、伊勢、石清水、慈鎮和尚自歌合、四季題百首、法華要文百首

1. 研究開始当初の背景

(1) 慈円の和歌作品の解明のために、その詠歌時期（初学・実験・習熟・自省）のうち自省期に集中して詠まれた諸社法楽百首群に焦点を絞り、その法楽の目的を明確にする必要があった。春日・北野・賀茂・四天王寺・

石清水・日吉・伊勢などの諸寺社に奉納された各百首には序・跋に詠作者慈円の法楽意図が表明されており、百首内部の和歌内容とどう関係にあるのか、また承久の乱前後の政治状況とどうリンクしているのかなど、総合的視点からの考察が要求される。そのため

に、その諸法楽百首群の歌題についての基礎的考察、寺社縁起に関する資料整理、さらに法楽歌自体の和歌表現についての様々な検討など、数多の果たすべき課題が横たわっていた。

(2)テキスト本文に関して、諸法楽百首群には『拾玉集』諸本間に異同があり、かつ形態を異にする個別伝本も存在するなど、構成・組織などに問題を孕んでいた。ただし、『拾玉集』最善本のテキスト青蓮院本本文整定作業は幸い科学研究費（課題番号：05610359）の導入によって完了し、さらに研究成果公開促進費を得て『拾玉集伝本整定稿』（勉誠出版、平成11年）を刊行しているので、詠歌内容の分析・検討という次の研究段階に推進することができる。

(3)寺社縁起に関する基礎作業として、叡山文庫調査を行い、天台仏教系の内典などを踏査している。以前にも叡山文庫天海蔵の総合調査に参加従事し、『叡山文庫天海蔵識語集成』（叡山文庫調査会編、私家版、2000）刊行に携わるなどの経験を積んでいるので、寺社縁起に関する資料整理に専念できる体勢が整っていた。

(4)研究推進者が早稲田大学に提出した学位論文「慈円の和歌についての研究」に対して、平成9年度科学研究費（研究成果公開促進費）（申請番号：91108）を得て、『慈円和歌論考』（笠間書院、平成10年）に刊行している。それによって、従来の慈円研究には及びもつかなかった和歌内容と仏教書の関係についての実証的解析が可能となっていた。

(5)これまでに獲得した科学研究費で果たし得なかったこと、およびその反省点に立ち、寺社縁起形成過程の解明という壮大な目標に向かって邁進する準備が整っていた。

2. 研究の目的

(1)本研究は、新古今歌人慈円における和歌活動を探求するために、その特徴の一つである諸法楽百首群の詠歌内容を解析しようとするもので、法楽歌と寺社縁起との間に介在する諸々の問題を解明することを最終目的としている。

(2)法楽歌については、科学研究費「慈円法楽歌群の総合的研究」（課題番号：11610448）で到達している『拾玉集』伝本における差異状況や個別伝本の基本的資料調査に基づき、新たな解析のレベルに進める。

(3)寺社縁起については、科学研究費「寺社

縁起形成を視点とした慈円法楽百首群についての基礎的研究」（課題番号：17520124）で基本的収集作業を完了しているので、序・跋に見られる法楽意図と寺社縁起との密接な関係などの領域について補完する。詠歌内容の分析に取り組み、寺社縁起の形成過程を体系的に考究してゆく。

(4)慈円の諸法楽百首群に関する研究は著しく進展してきており、寺社縁起の形成問題を考察する点においても、目覚ましい成果が見られる。

①研究推進者もその一員として参加した、平成14年度国文学研究資料館共同研究「経典解釈としての慈円・尊円の法華和歌集」では、ジャン・ノエル・ロベール氏（当時、フランス国立高等研究院教授）を中心として、法華経廿八品の詠歌内容についての討議が為された。

②その後、研究推進者も国立高等研究院客員教授として講義「慈円の釈教歌とその詠歌方法についての考察」を行った。その講義内容は高等研究院年報114に“La Composition Poétique et la Poesie Bouddhique chez Jien”として掲載され、日本文学と仏教との関係についての関心は最早海外の研究者にも拡大波及の一途を辿っている。

③ロベール教授は“La Centurie du Lotus, Poems de Jien(1155-1225) sur le Sutra du Lotus” (College de France Institut des Hautes Etudes Japonaises, 2008)という『慈円「法華要文百首」訳注』を刊行している。

④したがって、研究推進者に課せられた使命は、長年培ってきた『拾玉集』伝本や個別伝本の博搜から得られた集積にもとづき、法楽歌解析によって寺社縁起の形成過程を明確にし、さらにその相関関係を解明することにある。

3. 研究の方法

(1)平成21年度：慈円の法楽歌のうち、慈鎮和尚自歌合や、法楽百首の『拾玉集』各系統本所収本を含め個別伝本については、基本的資料は収集を殆ど完了しているので、調査範囲を拡大して行う必要がある。

①研究の遂行にあたっては、関係諸機関に所蔵されている緒伝本を調査・収集した上で、必要に応じて紙焼写真の頒布請求などにあたる。写真頒布を許可しない機関が多いので、遺漏の無いように心掛ける。

②調査・収集の対象は、関東の諸機関（国文学研究資料館の他、彰考館文庫・内閣文庫など）や近畿の諸機関（叡山文庫・天理図書館・神宮文庫など）に集中している。

③大きな設備備品を要しないが、調査・収集作業が中心をなす。ただし、詠歌内容の分析

検討にはパソコンによる関係資料の入力作業、さらにプリントアウトによる解析作業を迅速に行うための処理を行う。

(2)平成22年度：慈円は天台座主を四度務めた人物であるので、諸社法楽百首群のうち、日吉社および皇祖神である伊勢内宮への尊崇が何といても中心を占めている。この年度は叡山文庫とそれを補完する国文学研究資料館を中心に調査を進める。遺漏の無いように調査・収集作業を行うと共に、随時データの追加作業を行う。

①「神道大系」などの基本資料の他、三崎良周・菅原信海などの巨匠による著書、最近では水上文義・堤邦彦・徳田和夫などの労作などにも目配りする。

(3)平成23年度：この年度は伊勢内宮に特化し、別宮の瀧原宮・瀧原並宮、摂社多岐原神社なども視野に調査・収集を行う。伊勢神道だけでなく、西行「諸社十二巻歌合」に関する資料などを博捜する。

①「神道大系」(神宮編・論説編・古典註釈編・文学編)掲載の資料の他、神宮文庫所蔵の貴重資料なども調査対象とする。

②別宮瀧原宮・瀧原並宮、摂社多岐原神社の実地を探索し、その規模などへの認識を改める。

(4)平成24年度：伊勢神道に関する基本資料の整理、特に「太神宮補任集成」などの補任類にまで調査範囲を拡大し、さらに伊勢神道および仏教との相関関係に対するの解明を進める。

4. 研究成果

(1)伊勢関係資料：「皇太神宮儀式帳」「太神宮諸雑事記」「倭姫命世記」などの基本資料が存在する。

①「皇太神宮儀式帳」(東大本居・名大皇學館・宣長記念館・神宮文庫・多和文庫5種など)

②「太神宮諸雑事記」(東大本居・名大皇學館2種・刈谷図書館村上文庫・大須文庫・多和文庫2種・歴博高松宮など)

③「倭姫命世記」(国文研・東洋文庫2種・東大本居・宮内庁書陵部・名大皇學館4種・刈谷図書館村上文庫・蓬左文庫2種・神宮文庫・三手泉亭2種・三手今井・多和文庫4種・歴博高松宮・東大宗教4種など)

(2)諸社法楽百首群の思想的背景をなすだけでなく、彼自身の基本姿勢に関わる『慈鎮和尚夢想記』の分析を行った。

①『毘逝別』所載の「慈鎮和尚夢想記」中に展開される「天皇・后・天照大神を三種の神

器に象り、また大日如来と習合させ、即位印信に及ぶ、神祇思想あるいは神仏習合的な部分の考察を必要とする。

②「真言の奥義」そのものの考え方に拠るが、国王(寶劔・金輪・金剛界大日)と后妃(神靈・仏眼・胎藏界大日)の交会から生まれるのは、大日如来を本地とする内侍所つまり天照大神であり次の天皇という内容が述べられている。

(3)天照大神の本地が大日如来という言葉説は『真言付法纂用抄』(大正新修大藏經77巻)に始まり、それを基に橘諸兄参宮譚が構想される。それが平安末から鎌倉初期にかけての東大寺再建事業と深く関係していることが分かる。

①文治年間、東大寺衆徒が伊勢神宮参詣の記録である『東大寺衆徒参詣伊勢大神宮記』(真福寺善本叢刊(古文書集一)が、建久六年伊勢公卿勅使九條良経の日記『建久別記(伊勢公卿勅使別記)』に引用される。

②兼実女任子の男子懐妊に向けた動きばかりに着目し九條家の「家」を強調するあまり、勅使をめぐる兼実の積極的な関与を見落とす傾向が認められる。

(4)天照大神が「玉女」の姿で示現した無国を基に、御願寺としての東大寺が建立されたことに関連して、『慈円消息』(浄土真宗高田派本山専修寺蔵：鎌倉遺文)の存在意義が得られる。

①『慈鎮和尚夢想記』内の「不動明王は大日如来の教令輪身」を想起させる。

②「不可説の夢記」が『慈鎮和尚夢想記』を指すものであること。それに拠って、その消息の日付・宛先がある程度推定できる。

(5)『慈鎮和尚夢想記』に展開された慈円の「二諦一如」観は、慈円の詠述中に具体的な事柄となって詠み込まれる。

①「懐成親王(春の宮人)・九條頼経」を詠じた歌が諸社法楽百首群に散見する。

②この「二諦一如」観に相当する「王法仏法相即」を夢想の中で告げた天児屋根命を尊崇する百首が伊勢皇太神宮法楽の「四季題百首」であり、梵漢和語同一観に基づいて廿五首題を四季に寄せた形態になっていること。

③この梵漢和語同一観に基づき、北野社法楽百首は、祭神菅原道真に因んで白氏文集から選出した秀句を題とした「文集百首」であること。

④「王法仏法相即」の化現である聖徳太子(救世観音)を讃仰する百首歌が「難波百首(真諦俗諦各五十首)」であり、『聖徳太子・十禅師願文』と密接な関係があること。

⑤氏神である春日大明神に捧げる百首(2種)が「春日百首・春日百首草」であり、『春

日表白』と関連がある。

⑥第二宗廟としての石清水八幡宮は不断念仏の道場ともなっていたので、法華経廿八品から選出した要文を題とした百首の形態となった「法華要文百首」であること。

⑦自分の宗教基盤である比叡山延羅寺に捧げる百首が「日吉百首」であり、『天台勸学講縁起』『日吉社告文』などの他、『耀天記』『嚴神抄』などの日吉山王縁起などとは相即不離の関係であること。

⑧『耀天記』に日吉社の祠官祝部氏はもと鴨縣主との説があり、日吉社と深い関係のある賀茂に捧げる百首が「賀茂百首」であり、庶民生活の営為を詠じた風論となっていること。

以上、諸社法楽百首群に通底する「二諦一如」観と九條家関係者(懐成親王も含まれる)を詠じた百首所収歌を総括することができる。

しかし、膨大な伊勢神道に関する著作が対象として扱うことのない「法楽歌」の背景に潜む歴史意識の深遠さに迫ることが出来なかった。引き続き法楽歌の全容解明に取り組んで行きたいと思う。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

- ① 石川一、慈円『仙洞句題五十首』『最勝四天王院障子和歌』校注、県立広島大学人間文化学部紀要5号、p147~160、2010、査読無
- ② 石川一、『嚴島宝前和歌』『嚴島奉納和歌』校注、県立広島大学人間文化学部紀要6号、p218~226、2011、査読無
- ③ 石川一、慈円「法楽百首」の位相、皇學館大学神道研究所紀要27号、p116~121、2011、査読有
- ④ 石川一、岩国徴古館蔵『鳥類八百首』翻刻、県立広島大学人間文化学部紀要7号、p196~206、2012、査読無
- ⑤ 石川一、釈教歌における和歌的文学性について一西行・俊成を経て慈円に至る法華経廿八品歌を中心に、仏教文学36・37合併号、p132~147、2012、査読有
- ⑥ 石川一、『御裳濯和歌集』校注(I)、県立広島大学人間文化学部紀要8号、p173~218、2013、査読無

[学会発表] (計3件)

- ① 石川一、慈円「法楽百首群」の位相、皇學館大学神道研究所公開学術シンポジウム「法楽和歌研究の現在」、2009、皇學館大学神道研究所
- ② 石川一、釈教歌における和歌的文学性について一西行・俊成を経て慈円に至る法

華経廿八品歌を中心に、仏教文学学会大会、2011、東洋大学

- ③ 石川一、『西行諸社十二卷歌合』についての考察、和歌文学学会関西例会、2013、龍谷大学
- ④ 石川一、「法滅」からの再生一東大寺再建における西行を中心に、龍谷大学仏教文化講演会、2013、龍谷大学仏教文化研究所

[図書] (計2件)

- ① 石川一・山本一、明治書院、『拾玉集(下)』、和歌文学大系59巻、p1~416
- ② 石川一・広島和歌文学研究会、勉誠出版、『後京極殿御自歌合・慈鎮和尚自歌合全注釈』、p1~426

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

- ① 石川一、エムワイ企画(古典ライブラリー)、『CD-ROM 和歌文学大辞典』、2013、慈円・拾玉集ほか23項目

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石川一 (ISHIKAWA HAJIME)
県立広島大学・人間文化学部・教授
研究者番号：80193283

(2) 研究分担者

()
研究者番号：

(3) 連携研究者

()
研究者番号：

